



# 学薬のひろば



Vol. 021

6/11(土)、平成17年度日学薬ブロック会議が岐阜のホテルグランブエール岐山にて愛知県学薬から11名が参加し行われました。今回、日学薬の事務移管問題、用語集の編集状況、空気検査の方法についてのビデオ作成、大会・講習会等の日程について築城日学薬副会長より報告が行われた後、新年度からの各県の状況と要望事項、これからの研究課題について協議が活発に行われ、今後の各県での指導に役立つであろうと思われました。また、7月24日には東建ホールにおいて県立高等学校担当者学校薬剤師講習会兼小中学校学校薬剤師指導者講習会を開催します。今回は高等学校担当学校薬剤師だけでなく、小中学校学校薬剤師の指導者講習及び新人学校薬剤師講習会もかねて下記のように行いたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

## <ご案内>

### 県立高等学校担当者学校薬剤師講習会 兼 小中学校学校薬剤師指導者講習会

愛知県学校薬剤師会会長 築城 敬直

〃 第三部会長 木全 勝彦

日頃、会の運営にご協力頂きましてありがとうございます。昨年より県立高等学校担当者講習会を開催させて頂いておりますが、最近、「環境衛生の基準」の改定に伴い各種環境衛生検査における検査機器の扱いなど実務の指導が地区で十分に指導できないという声を小中学校担当者からもお聞きしております。

そうしたことから今回、県教委の大冨先生お迎えし新基準への県教育委員会の方針をお聞かせいただくと同時に実際の各検査に用いる測定機器の使用方法などについて実務講習を実施したいと考えます。

**高校担当者**は必ずご出席していただくようお願い致しますが、**各支部の小中学校担当者（特に指導的立場の先生：複数可）**にも是非ご出席いただき各支部での指導講習に役立てていただければと考えます。また、会場の定員にゆとりがありますのでここ数年新たに学校薬剤師になられた先生方にもぜひこの機会に研修していただければ幸いです。

## 記

- 日 時 : 平成17年7月24日(日) 14:00~16:10  
(受付:13:40より)  
(支部長会が13時より開催されていますがその閉会后となります。)
- 対 象 : 高等学校担当学校薬剤師  
各地区指導学校薬剤師(小中学校)  
新人学校薬剤師  
※会場は300人入れますのでその他是非お聞きになりたいと思われる先生は  
ふるってご参加ください。
- 場 所 : 東建ホール(東建本社丸の内ビル 3階)  
名古屋市中区丸の内2-1-33 TEL 052-232-8070
- 講習内容
1. 「学校環境衛生の基準」の改訂等について  
愛知県教育委員会健康学習課 大嶋雄二先生
  2. 新基準に基づく環境衛生検査実務について  
愛知県学校薬剤師会理事 木全勝彦先生

※日本薬剤師会研修センター 研修点数1点  
※研修券は不要



## 第56回十四大都市学校保健協議会 報告

名古屋市学校薬剤師会理事 寺島健二

青葉きらめく杜の都仙台で、去る5月22日(日)に第56回十四大都市学校保健協議会が開催された。学校保健関係の大会は平日に開催されることが多いが、この大会は例年、日曜日に開催されている。このため、多くの学校薬剤師・学校医・学校歯科医あるいは学校関係者が参加することができ、活発な協議の行われる大会である。

近年、子供達を取り巻く社会状況は、心や体の健康にさまざまな影響を与え、「子供が子供らしく生きる」ことが難しくなっている。健康は、豊かに生きることの根幹であり、子供達が自分の将来や夢や希望をつなぐことのできる、健康的で明るい社会を築き上げていくことが私たちの責任である。このような考えのもと本年度は「生涯にわたる健康の基礎づくりの推進」をテーマに健康教育、保健管理、心の健康、地域保健のさまざまな問題について協議がなされた。

第1分科会（健康教育）では学校保健にヘルスプロモーションの理念を取り入れた健康教育の推進、第2分科会（保健管理）では生涯にわたり健康づくりに取り組む子供を育てる保健管理、第3分科会（心の健康）では多様化する子供の健康問題と背景をとらえ、しなやかで、豊かな心を持つ子供の育成、第4分科会（地域保健）では家庭・地域・学校の連携で進める保健活動（健康づくり）のあり方を課題として活発な協議がなされた。



参加した第1分科会（健康教育）で神戸市の井上貞子先生（養護教諭）らからは、「生活リズムチェック」と題した保健学習・指導に用いる視聴覚に訴える手作り教材（ソフト）の紹介が提言された。このソフトは食事・運動・休養・睡眠といった自分の生活を振り返らせ、規則正しい生活が、健康へと深い関わりをもっていることを理解させ、実践へと結びつけるのが目的であるとのことであった。子供達は自分達の生活を楽しみながらチェックし、また養護教諭はその結果を用いてより良い生活を習慣化できるよう指導されているとのことであった。これは近年、学校でコンピュータの授業が進んでいる現状をうまく利用した一例といえる。

一方で仙台市の小林幹子先生（養護教諭）らからは、紙芝居を用いた「くすりってなんだろう」と題した薬物乱用防止学習・指導に用いる教材について提言がなされた。紙芝居といった形式あるいはテーマを「くすり」にすることにより、児童は内容にとっても惹きつけられたとのことであった。また絵を見ながらいろいろと考えたり、想像することによって思考を高めることができたとのことであった。「くすりってなんだろう」の中には愛知県学校薬剤師会が作成した「くすりのお話」（一種の電子紙芝居）に共通する部分も多かったのが印象的であった。

このようにアプローチの仕方は異なるが「工夫を凝らした教材づくり」を行うことで、児童の自らの「生きる力」をはぐくむことができるように、全国でさまざまな研究がなされている。我々も「くすりのお話」にさらに改良を加え、より良い第二版、第三版といったものを製作していかななくてはならないと思われる。